

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690500143
法人名	N P O 法人 ヒューマックス
事業所名	グループホーム宮田の家
所在地	富山県氷見市島尾548-1
自己評価作成日	令和3年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人の「家族」という理念の下、利用者や家族との関わりの中で、自分だったら・・家族だったら・・と考え、介護する側される側の関係になることなく、柔軟にケアを行い、共に支えあえる様に努めている。宮田の家での生活が少しでも快適に過ごせる様に個々それぞれの問題や不安に対し解決に取り組み安心して繋がるように努めている。また、問題や不安が起こる前のケアに取り組み、混乱や不安の軽減に努め、共に楽しく助け合いながら過ごせる様に取り組んでいる。利用申請時や利用開始時・介護サービス計画説明時などに申請者や利用者・家族に理念である「家族」という事を説明し、気軽に話したり互いに相談できる様に努めている。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル 1 階		
訪問調査日	令和3年1月29日	評価結果市町村受理日	令和3年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

常に「自分の家族だったら、自分の親だったら」という視線で利用者や職員同士が関わり、「家族」のような温かな関係性を築いている。その環境から職員の離職率が低く、チームワークの良さが感じられ、認知症や重度者、看取りの利用者に対しても質の高いケアが提供されている。決まっているのは食事の時間のみで、本人の思いを尊重しながら生活を支援している。風呂は機械浴(チェアー浴)があり、エレベーターも完備し設備面も充実している。また、地域の方から苗をいただき、野菜やスイカ、朝顔などを利用者と一緒に育てている。さらに、小学校が近いことから通学時には元気な声が聞こえ、利用者や職員が子どもたちと挨拶を交わしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）			※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9, 10, 19）	○	1. ほぼ全ての家族と
					2. 家族の2/3くらいと	
					3. 家族の1/3くらいと	
					4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 20）	○	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある	
					3. たまに	
					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている	
					3. あまり増えていない	
					4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	○	66	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが	
					3. 職員の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 家族等の2/3くらいが	
					3. 家族等の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から理念に触れ、家族だったら・自分だったら・自分や家族に置き換えて実践に取り組んでいる。また、ミーティング時においても理念に触れながら問題の解決や軽減に柔軟に取り組んでいる。	系列法人において共通理念のもと、フロアやエレベーター内に掲示し、「家族だったら、自分だったら」と日々の中で利用者の立場を考えて実践に繋げている。ミーティング時にはサービス提供場面を振り返り、理念が反映されているか確認の場となっている。相手の立場を考えるのは「職員も同じ」と職員同士の思いやりも配慮されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の校外授業の受け入れや公民館でのイベントに参加し交流している。また、地域の商店や理容店を利用し交流している。もの忘れ・認知症相談会を開催し相談を受けている。	コロナ禍前は、小学校の認知症をテーマにした校外授業での訪問や、運営推進委員からの情報で公民館のイベントに参加するなどしていた。また、春祭りに獅子舞が来たり、寸劇に高校へキャラバンメイト活動をしたりと、積極的に交流を図り、地域とのつながりを大切にしている。コロナ禍でも散歩時に近所の方や通学の小学生と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座に参加し地域の小学校に出向いている。また、氷見市認知症高齢者等地域生活支援事業に参加し、もの忘れ・認知症相談会を開催し相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子やサービスの実践、状況について説明し、会議での意見をまとめサービスの向上に活かしている。また、地域の防災訓練の誘いを受け参加を行った。	会議には市の職員、地区社協の会長、地域住民などが参加し、家族には全員に参加の声がけをしている。改善課題を話し合い、取り組みに繋がったケースもある。議事録も整理し、出席者の意見なども取りまとめ、全家族に送付している。運営推進会議からの提案で地域の防災訓練に利用者と参加し、交流の機会となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議を通じ、取り組み状況や実情を説明し助言や意見を頂いている。またメール等にて情報を頂いている。	市町村担当者から防災マップをもとに助言をもらったり、入居の相談を受け、緊急時の対応など連携を図りながら問題解決に向けての協力体制が取られている。介護相談員の受け入れも行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を開催している。身体拘束について学ぶ機会・勉強会を開催し、全職員が身体拘束について理解している。また、日頃からグレーゾーンにも触れ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を行い、「不適切ケアグレーゾーン」の理解、共有認識を深めるとともに、日々のケアの中で、利用者の態度や表情を見て、自分たちの対応が間違いがないか振り返り、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会や勉強会を開催し、全職員が理解している。日頃から徹底し虐待のないケアに取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や介護主任は権利擁護について学んだ経験があり理解している。必要に応じて支援して行く方針である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には十分に説明を行い、不安も尋ねながら対応し、不安や疑問が解消できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画書説明時に近況を伝えながら要望や意見を求めている。意見や要望については記録に残し、全職員が周知し、実践できることは直ぐに取り組んでいる。	利用者の思いや意見は日々の中で伝えられ、記録し速やかに対応している。運営推進会議の議事録送付時に、意見・要望等の記入用紙を同封し返送できるようにしている。意見・要望等はケース記録に残し、職員全員が共有し、直ぐに対応できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を聞き入れ反映させている。また、年1回の代表者との面談が開催され、意見や要望や目標などを話せる機会を設けている。	職員の提案で、新型コロナ感染対策の備品の整備や職員トイレの電気スイッチを非接触型へ取り換えた。また、駐車場の除雪等についても職員の不安や意見提案を聞き入れ、直ぐに対応している。職員の個別の意見等にも相談しやすい雰囲気・体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望や希望を聞きながら働きやすく、責任を持って仕事ができる様に環境や整備に努めている。また、職員の力量を把握し異動も含め、活躍できる取り組みを行っている。職員の勤務状況や努力・資格・力量を給料水準にも反映させ向上心が持てる様に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は新型コロナ感染予防もあり研修会や勉強会には参加できていないが、力量に合わせ学べる機会を設け向上して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	氷見市認知症高齢者等地域生活支援ワーキンググループリーダーに参加し交流し活動している。活動を通じ情報や意見を聞きサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人や家族、関係者と面談し状況の把握に努め、要望や不安や疑問点も尋ね、説明しながら安心して利用できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に本人や家族と十分に話し合い、不安や要望を聞き出し、不安の軽減に努め、要望に沿える様に取り組んでいる。また、事業所で出来る事や出来ない事も同時に説明し納得できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い、意見を聞きながら、その時に必要なサービスを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」という理念の下、共に支え合いながら暮らせる様に努めている。家事仕事や調理など力量に合わせ提供し共に支え合い楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から現状や近況の報告を行い、起こり得る危険や問題の軽減、予防策、本人の思いや願いを話し合いその時々に応じて協力も得ながら共に支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた病院や店舗、理容店、地域資源を活用し、関係が途切れない様に支援しているが、現在は新型コロナ感染予防の為、控えている。終息後は以前と同様に利用して行きたい。	毎月、利用者の近況報告として、利用者一人ひとりの行事での写真を集め、職員のコメントを加えて、それぞれ家族に郵送している。また、希望時には電話やFAXで家族や知人へ連絡を取り、なじみの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々それぞれの性格や利用者同士の関係を把握し、リビングでの自席の場所の工夫を行ったり、それぞれの認知症症状を把握し気の合った者同士が支え合いながら気軽に過ごせる様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、戸外で会った時など、これまでの関係と変わらず、気軽に話し合い必要に応じ相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の情報や日頃の会話や行動から、思いや希望を汲み取り、サービスの実践に取り組んでいる。困難な場合においては家族や知人より情報を聞き出し、本人本位の実践に取り組んでいる。	本人の思いを日々の関りから拾い上げ、ケースに記録している。家族や知人からの情報も同様に記録し、より本人の意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報を集めたり、家族や知人より、これまでの暮らし方や環境なども収集し情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々それぞれのその日の状況や行動を記録し気づいた事や力量・楽しんでいた事等の情報を職員間で共有し把握に努め、安心して楽しく過ごせる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・主治医と話し合い、関わり合い方や服薬の調整、楽しみ等の意見や助言、指示を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成においては、本人、家族、関係者で話し合い、本人・家族の思いや意見を反映させている。また、アセスメントの作成は担当者が行い、利用者の把握から現状に即したケアプランの作成に繋げている。入居当初は1カ月に1度と細やかに見直しがされ、その後は3カ月に1度の見直しを行っている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきや活動を個々に記録し実践を行うと共に意見や情報を基に3か月に1回の評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物、理容店への付き添いや散歩、日光浴など、その時々生まれるニーズに柔軟に対応している。また、食事の提供では好き嫌いや食べられない物を把握し、個々に合わないメニューの時は個別で別メニューを提供するなど柔軟に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や商店、病院、理髪店、公民館、地域の集まりなど人が密集する場所は新型コロナ感染予防の為に避けているが、終息した場合は以前のように地域資源を活用し楽しんでいきたい。現在はホーム内で楽しめる事を見つけ、個々が力を発揮できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用前からの馴染みの病院で受診し、本人や家族の希望に応じている。また、受診が困難な方には本人・家族が希望するDrに往診をお願いしている。また、緊急時や異変時はその時々々の症状に応じた適切な医療機関で受診している。	本人・家族の希望に応じ、なじみの病院への受診、往診の希望など、利用者の状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医との連携は「受診記録」をもとに、最近の様子やバイタル一覧表、変化があればコメントを記入し情報の伝達を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の看護職員の出勤時に情報を伝えながら状態を診てもらい、助言や指示を受けている。また、看護職員は助言や指示等を看護記録に記入し、職員全員が情報を共有している。看護職員とは出勤日以外でも連絡を取り合い、指示や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻繁にお見舞いを兼ねた状態確認に出掛け、病院や家族に状況を尋ねたり、実際に本人の状況を確認し、早期退院に向けて受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時など早い段階で重度化した場合にも触れ、ホームで出来る事や出来ない事の説明を行い話合っている。また、本人の状態に合わせてその都度、重度化や起こり得る事についても話し合いながら方針を決めている。	事業所で出来ること、出来ないことを十分に説明しながら、方針を共有し家族、医療関係者、職員全員で連携を図りチームで支援している。今年度は2件の看取り介護を実施している。コロナ禍ではあるが、家族には感染予防対策の上、面会してもらい看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習Ⅰを受講し急変時や事故発生時に迅速に対応ができるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害に備え、避難訓練を実施している。また、運営推進会議にて現状を報告し、会議終了後に実際に自主の避難訓練を開催し現状を見て頂き、助言や意見をもらいながら、協力体制が築けるように努めている。	避難訓練では、避難場所まで実際に歩いてみることで、坂があり徒歩での移動は困難な箇所があると気づき、避難対策を新たに検討している。緊急連絡網伝達訓練も実施している。非常食の備蓄もされ、消費期限が近づくと避難訓練会食として提供している。地域住民との協力体制はまだ整備されていない。	車で3分くらいの隣町に新しい消防署が建設中である。新しくできる消防署とも連携し、地域住民と避難訓練を行えるような働きかけに期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方が知られたくない事や恥ずかしい事等は他者に気づかれない様に配慮している。また、さりげない介助にて本人に気づかれず嫌な思いをせずに過ごせる様に取り組んでいる。日頃から、理念の「家族」に触れ自分や家族に置き換えてプライバシーや誇りを損なわないように取り組んでいる。	年度初めに法人の合同勉強会があり、理念に立ち返って認識を深めている。相手の気持ちを考えたケアについて職員全員で共有する機会となっている。日常的に「知られたくないこと」「恥ずかしいこと」へ気を配り、気づかれないようさりげない介助をすすめている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で自己決定できる様に取り組んでいる。また、日頃の様子や活動を通じ、個々の希望の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から業務を行う中で利用者の関りを優先するように職員同士で理解し利用者のペースで過ごせる様に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに応じ身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。個々が望む時に理容店へ出掛け、カットやパーマ、毛染め等が楽しめる様に取り組んでいる。衣類の買い物なども一緒に選びながら希望する衣類を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々それぞれの力量を把握し、献立作りや調理・味見・盛り付けを共に行い楽しんでいる。現在はコロナ感染予防の為、買い物には出掛けていないが、終息後は再開し楽しんで行きたい。	職員が利用者の好みや苦手なものを聞きながら一緒に献立を作成している。利用者それぞれに出来ることを発揮する場面があり、食事の形式も立食やお弁当など食事を楽しむ工夫がされている。地域で採れた梅で梅干しづくりや、近所からもらった魚や野菜を調理し、食の楽しみや喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、情報を共有している。また、お茶のポットを設置し好きな時にお茶を飲める様に努めている。その日の健康状態に合わせて柔軟にメニューを変更し、その方に合った食事形態の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯洗浄・歯磨きの声掛けや確認・必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、それぞれの排泄の状況を記録し、把握に努めながら失敗の無い様に誘導や介助を行っている。さりげない声掛けにより、自立が維持できる様に努めている。	排泄チェック表はタブレット端末で管理されており、利用者一人ひとりの排泄の間隔を確認し、また、排泄パターンを把握しながら排泄の失敗がないよう、さりげなく声がけ、誘導している。自尊心や自立支援に配慮した支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水溶性食物繊維と不溶性食物繊維を合わせた食事の提供を行い便秘の予防をしている。また、軽運動の参加を促し、身体を動かす等、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後からの入浴になっているが、汚れた時や希望時はいつでも臨機応変に入浴が出来るように取り組んでいる。	1日おきに入浴できるよう予定しているが、希望時や状況に合わせて柔軟に対応している。浴室は家庭浴と、重度対応を考慮したチェアー浴があり、利用者の状態に合わせて利用できる。マンツーマンで対応し、会話を楽しくみくつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制や決まり、無理強いする事は無く、いつでも好きな時に自由に休める様に取り組んでいる。室温管理や温度調整を行い、安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で薬剤情報をまとめ、情報を共有し理解に努めている。服薬の変更や追加、中止の際には効果や副作用についても話し合い、変化や不調の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量や楽しみ等の把握に努め、得意な事や好む家事仕事、作業を役割を持って楽しめる様に支援している。習字や絵はがき、編み物や調理等、それぞれの経験を活かし、共に楽しめる様に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナ感染予防の為、外出支援は行っていない。終息後は以前の様に買い物やドライブ、散歩、地域のイベント、季節が感じられる場等、本人の希望に沿って出掛けて行きたい。	コロナ禍以前は買い物やドライブ、地域のイベントなど利用者の希望に沿って出かけていた。ファミリーレストランへおやつを食べに出かけた際は、席の配慮など店の協力を得ている。コロナ禍では、天気の良い日に散歩や日光浴、ひなたぼっこを行い、外気に触れて気分転換を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの力量に合わせて、家族の協力の下、お金を所持し、買い物時には自分で支払う事が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話を掛けたり、受けたりできる様に取り組んでいる。また、手紙やFAXのやり取りも同様に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境づくりに努め、季節が感じられる飾りや写真、作品を掲示し居心地の良い空間作りに取り組んでいる。また、掲示物や音、光、温度等で混乱が生じた時は直ぐに原因を取り除き、混乱や不安の軽減に努めている。日頃から様々な原因によって不安や混乱が発生しない様に未然に取り除く工夫に取り組んでいる。	共有空間は天井が高くなっているが、エアコンが少し低い位置にあることで、フロア全体が温かく、モダンで明るい光が差し込む心地よい空間となっている。職員や利用者の作品を額に入れ、壁面も季節に合わせた装飾がされており、目で楽しむことができる。また、利用者の不安や混乱が生じないよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子やソファを設置し、思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力を得て、馴染みの家具や使い慣れた物品や家族の写真等を持ち込んで頂いている。また、それぞれが自由に飾り付けをしたりなど、居心地良く過ごせる様に支援している。	居室には、馴染みの家具や家族の写真、慣れ親しんだ小物などが置かれている。日頃の作品なども自由に飾られ、その人らしさが伝わる心地よい空間となっている。また、芳香剤が置いてあり、好きな香りを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置しており、安全に生活が送れる様な建物内部になっている。居室前には表札を設置したり必要に応じて本人の分かる飾りを設置する等、自分の部屋が分かる様に工夫している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮田の家

作成日： 令和3年2月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	新型コロナウイルス感染予防の為、研修の参加は出来ていない状況である。	新型コロナウイルス終息後は県内の研修に参加し、参加した職員が中心となり、実践に活かす。	職員それぞれの力量に合わせた研修や勉強会を受ける機会を確保し、更にケアの質の向上を目指す。	12ヶ月
2	35	火災や災害に備え、避難訓練を実施し、運営推進会議にて現状の報告と協力を求めているが、地域住民が参加しての訓練は実施できていない現状である。	家族や地域住民へ避難訓練の参加と協力を求め、実際に参加して頂き、意見や助言をもらいながら火災や災害に迅速に避難ができる様に備える。	家族や地域住民へ避難訓練の参加協力を行い、参加してもらう。実際の現状を知って頂き、協力体制を整える。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。